令和３年３月７日

報道各位

一般社団法人日本自動車車体補修協会
代表理事　吉野一

ＪＡＲＷＡ監修のもと
ボッシュは車体計測の手法を追加した
新たなＣＤＲテクニシャン認定トレーニングを開始します

共同ＷＧの成果である
「ＥＤＲデータと車体計測データの同時取得の必要性とその手法」
を既存のトレーニングカリキュラムにフィードバック

一般社団法人日本自動車車体補修協会（ＪＡＲＷＡ、吉野一代表理事）監修のもと、正会員であるボッシュ株式会社（クラウス・メーダー社長、東京都渋谷区）は、２０２２年４月より、車体計測の手法を追加した新たなＣＤＲテクニシャン認定トレーニングを開始します。２０２２年度は、株式会社あいおいニッセイ同和自動車研究所の埼玉センターを会場に、月に一度頻度で同トレーニングを開催する予定です。

これは、ＥＤＲ（イベントデータレコーダー：自動車に搭載された「車速、加速度、シートベルト着用等を記録する事故情報記録装置」のこと）が、２０２１年９月３０日「道路運送車両の保安基準及び道路運送車両の保安基準の細目を定める告示の一部改正」の交付（即日施行）により、２０２２年７月１日（金）以降に発売の新型車から順次の搭載を義務付けられたことを受けての取り組みです。

さて昨今、自動車事故検証の有力な証拠の一つとして注目されているＥＤＲデータは、ボッシュのＣＤＲアナリスト制度によって刑事、民事事故における調査手法が完全に確立されていることから、ＥＤＲの搭載義務化により今後益々の利活用が見込まれています。

しかし、ＥＤＲデータの更なる利活用、例えば「事故車両の損傷度合いの判定へのＥＤＲデータの利活用（車体整備における修理金額の推定への利活用、中古車検査における修復歴判定への利活用など）」については、「物理的な損傷個所や損傷範囲をどのようにして特定するか」などの課題が存在します。

また、「ＣＤＲテクニシャン資格保持者数の早期確保」、すなわち「読み出し拠点の全国規模の早期設置」も大きな課題です。

これらの課題を解決すべく、ＪＡＲＷＡとボッシュは２０２１年８月２日（月）付けでＪＡＲＷＡ内に設置した「ＥＤＲデータ利活用ワーキンググループ（ＷＧ）」にて検討を重ね、今般、一定の結論を得ましたので、その成果を共同事業としてアウトプットします。

具体的には、ＣＤＲテクニシャン認定トレーニングカリキュラムに「ＪＡＲＷＡバランス

ゲージ」を用いた車体計測データの取得方法を追加し、「ＥＤＲデータ」と共に「車体計測データ」や「事故現状の写真データ」を指定の方法で取得するスキル及び取得したデータを指定サーバにアップロードするスキルをもつＣＤＲテクニシャンを育成します。

併せて、ＣＤＲテクニシャンの育成や導入設備にコストを投じた整備工場、車体整備工場、中古車流通事業者、ロードサービス会社などのアフターマーケット事業者が、各種データの取得作業及び指定サーバへのアップロード作業を収益事業とできるよう、両者が中心となって関係各所と本事業のビジネスモデル化の推進を図り、「読み出し拠点の全国規模の早期設置」を推進します。

ボッシュは現在約２７０名のＣＤＲアナリストに加え、１，０００名規模のＣＤＲテクニシャンを数年以内に育成する計画です。

ＪＡＲＷＡは特別会員、正会員合わせ約３０社、整備工場、車体整備工場などを一般会員とした約１，６００工場のネットワークを有します。

今後ＪＡＲＷＡとボッシュは、既設の「ＥＤＲデータ利活用ワーキンググループ（WG）」で「指定サーバにアップロードされたデータをステークホルダー間でシェアする仕組みのあるべき姿」に関する調査研究を行い、市場における各種データの利活用の促進を目指します。

以上

参考１　計測に使用する機器には「ＪＡＲＷＡバランスゲージ」が推奨されています。：
https://jarwa.or.jp/info/upload/123/JARWA%E3%83%90%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%82%B9%E3%82%B2%E3%83%BC%E3%82%B8%E3%80%8D%E3%81%AE%E6%96%A1%E6%97%8B%E3%82%92%E9%96%8B%E5%A7%8B%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%9920201207.pdf

参考２　ボッシュ社製ＣＤＲ：https://corporate.bosch.co.jp/news-and-stories/apcj-2018/apcj-2018-aa-01/

一般社団法人　日本自動車車体補修協会　　担当事務局　飯塚
東京都千代田区神田佐久間町4-6　斎田ビル５F　　TEL)03-5829-4811　　FAX)050-3153-2056